

氏名(本籍)	おお 太 田 浩 司 (奈良県)		
学位の種類	博 士 (経営学)		
学位記番号	博 甲 第 4220 号		
学位授与年月日	平成 19 年 3 月 23 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
審査研究科	ビジネス科学研究科		
学位論文題目	経営者予想情報の特性と有用性		
主 査	筑波大学教授	工学博士	椿 広 計
副 査	筑波大学教授	経営学修士	小 倉 昇
副 査	筑波大学助教授	博士(理学)	牧 本 直 樹
副 査	筑波大学助教授	博士(経営学)	伊 藤 彰 敏
副 査	法政大学教授	博士(会計学)	八重倉 孝

論 文 の 内 容 の 要 旨

本博士論文は、経営者による企業業績の予想情報の特性と有用性を、株式市場への影響という観点から実証的に分析したものである。本論文は、大きく3つの視点から経営者による業績予想情報を分析している。つまり、(1)業績予想情報の内容と株式市場の動向を詳細に分析することによって、業績予想情報の有用性を検証した研究(第4章)、(2)企業の外部環境あるいは内部環境の差による業績予想情報の精度を検証した研究(第5章、第6章)、(3)経営者による業績予想情報とアナリストによる業績予想情報を比較することによって、両者の相対的な信頼度を検証した研究(第7章、第8章)から構成されている。どの研究においても、豊富なデータに緻密な統計分析を適用することによって、客観的かつ明確に経営者による業績予想情報の特性と有用性を検証することに成功している。

審 査 の 結 果 の 要 旨

業績予想情報の信頼性や株式市場への影響を議論する研究は諸外国にも多くみられるが、経営者による業績予想が法的な制度によって半ば義務付けられているという日本の特殊性を踏まえれば、日本企業の経営者予想情報を包括的に評価する研究が望まれていたといえる。本研究は、一面的な見方に偏ることなく経営者による業績予想情報を分析している点が優れた点である。本論文を構成する個々の研究には若干の議論の余地は残しており、さらに緻密な研究を積み重ねる必要も感じさせるものの、総合的に見て経営者予想情報の分析という領域において重要な貢献をする研究であると評価できる。

したがって、本論文は博士論文として十分な要件を満たしていると判断する。

よって、著者は博士(経営学)の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。